

専門共通科目
【解答例】

論述問題は一定の制約のもとに述べるものであり、その性質上、解答例の作成は難しいため、一部の問題を除き、採点のポイントを掲載する。

【設問1】

問1. (解答例)

令和5年12月以降、利用件数（または利用率）は増加している。令和6年5月時点での利用率は7.73%であり（または、利用率は4.0～7.0%台の推移であり）、普及は進んでいない（または、普及の進みは緩やかである）。

問2. (採点のポイント)

以下を踏まえて1つでも記述できていればよい

<メリット>

- ・個人の健康管理に役立つ
- ・データに基づくより良い医療が受けられる
- ・手続きなしで高額療養費の限度額を超える支払いが免除される
- ・確定申告時に医療費控除が簡単にできる
- ・医療現場で働く人の負担軽減ができる

<デメリット>

- ・利用できない医療機関もある
- ・情報漏洩リスクがある
- ・子どもや高齢者、障害者等にとっては負担が大きい
- ・情報格差により、恩恵を受けられる人が偏る可能性がある

【設問2】

問1. (採点のポイント)

以下の内容を踏まえて記述できていればよい

- ・ H29年からR4年にかけて、ACPの認知度は一般国民、医療・介護従事者全てにおいて向上した
- ・ H29年からR4年にかけて、ACPのことを「よく知っている」と回答した者の割合は、医療・介護従事者で2倍以上になった
- ・ R4年、医療・介護従事者におけるACPの認知度は向上したが、「よく知っている」と回答した者に比べて「聞いたことがあるがよく知らない」「知らない」と回答した者の割合の方が多い
- ・ R4年、一般国民におけるACPの認知度は向上したが、「よく知っている」と回答した者は6%未満であった。一般国民における認知度は依然として低い

問2. (採点のポイント)

図3が示す結果に基づいて次のいずれかを記述できていればよい

- ・ 人生の最終段階にあるという状況を、患者・利用者本人や家族が受け入れられるようになる
- ・ 家族等による本人へのサポート力が強化される（または、家族等が患者・利用者本人の意思を確認するため積極的に参加するようになる）
- ・ 医療・介護従事者による家族等へのサポート体制が整う（または、充実する）
- ・ 医療・介護従事者のACPに対する知識の向上や経験の蓄積
- ・ 患者・利用者本人や家族に対してACPについて説明するための時間が確保される

問3. (採点のポイント)

問2で回答した考えに対応した対策が、具体例を用いて記述されているか

【設問3】

問1. (採点のポイント)

医学、看護、リハビリテーション、在宅生活支援・ソーシャルワーク、その他(薬学、栄養、心理など)の視点を踏まえて記述できていればよい

<職種の視点>

- ・医学(例:医師、歯科医師など)
- ・看護(例:病棟看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、退院調整看護師など)
- ・リハビリテーション(例:理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など)
- ・在宅生活支援・ソーシャルワーカー(例:MSW、ケアマネージャーなど)
- ・その他(例:薬剤師、管理栄養士、臨床心理士など)

問2. (採点のポイント)

退院に向けた支援とその理由が、以下の視点2つを踏まえて記述できているか

<支援の視点>

- ①医療的な視点(例:ストーマ装具交換を中心としたセルフケア支援など)
- ②生活支援の視点(例:妻の介護負担軽減に向けた支援、A氏と妻が利用可能な社会資源の紹介など)